

理事会セッション（教育委員会共催）

今、大学における研究・教育現場から訴える

Urgent Reports on Research and Education Environment at Universities

パネルディスカッション（今後取り込むべき課題は何か）

Panel Discussions "What are issues to be solved? "

*上坂 充¹, *中島 健², *佐藤 修彰³, *宇埜 正美⁴, *牟田 浩明⁵, *檜山 敏明⁶¹東京大学, ²京都大学, ³東北大学, ⁴福井大学, ⁵大阪大学, ⁶九州大学

1. 概要

福島第一原子力発電所事故以降、この3月で6年が経過する。この間、原子力をめぐる状況が大きく変わりつつある。事故直後の対応から廃炉措置を目指した長期的な対応とともに、新規制の下での原子炉の再稼働がある。このような状況に即していくためには、原子力分野における教育および研究環境の整備と次世代への人材育成が喫緊の課題となっている。

しかしながら、大学等における研究炉の停止や廃止があり、また、RI および核燃料を使用できる研究施設の廃止が相次ぎ、原子力分野における基礎・基盤研究の実施や、次世代への研究展開への影響が懸念されている。一方で、IAEA による IRRS を反映した規制が導入されつつあり、既存の研究施設においても、老朽化している施設の新規制への対応に苦慮している。そこで、大学における原子力分野関連研究施設の現状を理解し、今後の基礎・基盤研究の在り方を考えることは重要であり、今、大学における研究・教育現場から訴える次第である。

本セッションでは、原子力研究基盤の確立や福島第一原発の廃炉への対応等を考えると若手研究者・技術者の養成を含めた次世代にまたがる対応が不可欠な、原子力分野における教育・研究環境の現状について関連機関より報告をもとに、今後の在り方、対応について意見交換を行う。具体的には

- ① 研究炉に関わる研究環境と課題と題して、京大原子炉をはじめ、研究炉の現状と展開について、アゴラの提言検討委員会より、これまでの経緯と展望・課題について京大 中島先生からの報告、
- ② 次に、大学研究施設に関わる研究環境と課題と題して、国内大学の核燃および RI 施設を含めた研究環境の現状と展望・課題について東北大佐藤先生からの報告、
- ③ 学部・大学院に関わる教育環境と課題と題して、国内大学の原子力系学科における学部・大学院の構成や教育体制の現状および課題について福井大 宇埜先生からの報告がある。

これらの報告を受けて、同じく核燃および RI 施設を管理している阪大 牟田先生と九大 檜山先生にパネリストに入っただき、パネル討論を行う。上坂会長が司会を務め、阪大および九大の現状について簡単に現状を報告していただく。続いて、施設の現状、管理体制への対応、規制への対応などの課題を整理しながら、意見交換を行う。これらを踏まえて、原子力分野における教育・研究環境と展望について、学会として、なすべきこと、できることは何かを考える場とする。

*Mitsuru Uesaka¹, *Ken Nakajima², *Nobuaki Sato³, *Masayoshi Uno⁴, *Hiroaki Muta⁵ and *Toshiaki Hiyama⁶

¹Univ. of Tokyo, ²Kyoto Univ., ³Tohoku Univ., ⁴Univ. of Fukui, ⁵Osaka Univ., ⁶Kyushu Univ.,